

共生・協働のむらづくり通信

第8号

～人と自然と地域が支え合う みんなで創る農村社会～

むら
共生・協働の農村づくり運動



農村集落の再生



むらづくりの維持発展



新たなむらづくりの形成



鹿児島県農政部農村振興課

むら
鹿児島県共生・協働の農村づくり運動推進協議会

共生・協働の農村づくり運動について

本県では、地域住民の自主的な話し合い活動を基本に、認定農業者や営農組織の育成、地域特産品づくり、伝統芸能の保存・継承など県内各地で様々な活動が展開されています。

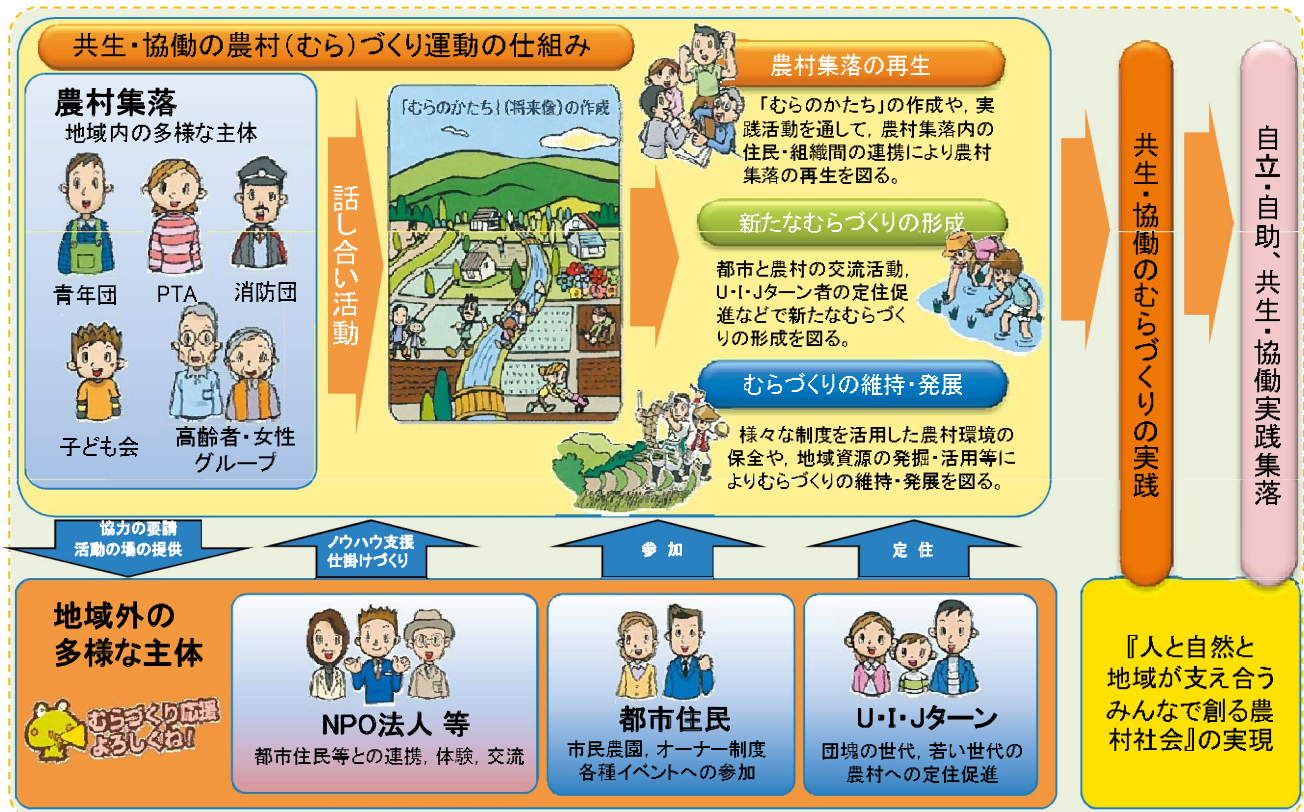
一方で、農村集落では過疎・高齢化や混住化等の進行により、集落機能の低下などが懸念されています。

このため、県では、平成19年度から、農村集落の活性化に向けて、NPOや都市住民など地域外の活力を導入した「共生・協働の農村(むら)づくり運動」を展開しています。

●運動の目標

「人と自然と地域が支え合う みんなで創る農村社会」

農村が農業者などの地域住民にとって、ゆとりとやすらぎを実感できる生活空間となるとともに、都市住民に対して魅力あるライフスタイルを提供する場となるよう、すべての人々が、多彩で豊かな自然や伝統文化などを再認識し、世代、性別、地域、価値観などの違いを超え、共に支え合い、共に築くむらづくり



都市住民との交流



地域特産品の開発



伝統芸能の継承

平成26年度豊かなむらづくり全国表彰事業 日置市高山地区公民館が農林水産大臣賞受賞



日置市高山地区では、「廃校を活用した都市農村交流と美しい農村を受け継ぐ全員参加型むらづくり」を合い言葉に、地区住民全員が会員となる「NPO法人がんばろう高山」を設立し、地区内の棚田の保全や高齢者の外出支援、生活環境の充実などへの取り組みが評価され、平成26年度豊かなむらづくり全国表彰事業（九州ブロック）において、「農林水産大臣賞」を受賞しました。



豊かなむらづくり全国表彰（九州ブロック）農林水産大臣賞 表彰式

○高山地区の概要

- ・総人口 242人(135世帯)
- ・6集落で構成
- ・主な作付品目
水稲、イチゴ、肉用牛
- ・「NPO法人 がんばろう高山」の設立（平成25年）



「尾木場の棚田」



集落ごとに体験を提供する
秋まつりの開催



高山地区交流センター



棚田での米づくり体験

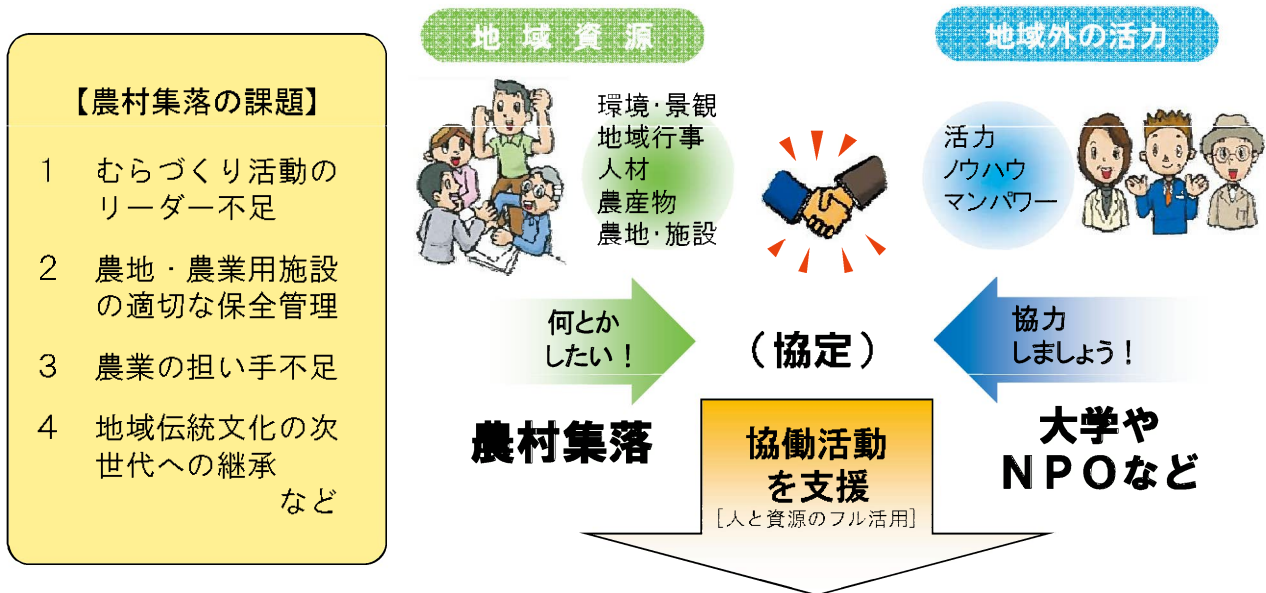
平成14年からスタートした「高山ふるさと秋まつり」では、地域農林水産物を活かした手づくり体験など、集落毎に体験プログラムが楽しめる体験型交流として定着しています。

廃校となった小学校跡地を活用し、平成8年に開設された「高山地区交流センター」では、宿泊合宿等の受入を行っています。また、毎年合宿に訪れる大学生による音楽コンサートの開催や秋まつりの手伝いなど、地域との継続的な交流につながっています。

棚田の用水路に珍しい在来種のクロメダカが生息していることから、きれいな水で育ったお米「めだか米」として付加価値を付けた販売や、米づくり体験等の都市農村交流に取り組んでいます。

共生・協働のむらづくり活性化事業の取組紹介

県では、農村地域の過疎・高齢化が進むなか、大学やNPOなど地域外の多様な主体と協働して取り組む、地域の豊かな自然や伝統芸能、食材などの地域資源を活かしたむらづくり活動を支援しています。今回は、平成24～25年度事業に取り組んだ3地区をご紹介します。



よしとし 《吉利地区公民館(日置市)と NPO法人食育研究会らく楽料理教室との協働活動》

日置市吉利地区では、NPO法人食育研究会らく楽料理教室と連携し、新たな特産品の開発や郷土食の伝承、企業等と連携した都市農村交流活動に取り組みました。

当地区では、水稻の転作として「キタカタ営農生産組合」が大豆の生産に取り組むとともに、地元加工グループによる大豆等を活用した加工品づくりや、地区内にある農産物直売所「吉利物産店」を拠点にした販売及び交流活動を行っています。

特産品開発では、NPO法人と協働で地元産大豆を活用した加工品の試作・検討に取り組み、新たに豆乳プリンを商品化することができました。

また、企業と連携した食育事業では、親子を対象にした大豆の種まき・収穫体験や大豆料理教室を行ったほか、日置地域地産地消バスツアーと連携した直売所でのイベントの開催を行うなど、都市住民との交流拡大を図ることができました。

今後も引き続き、地元食材の魅力を最大限に生かし、地域ぐるみで取り組む生産・加工・販売の6次産業化や都市農村交流に取り組むこととしています。



地元産大豆を活用した料理教室



直売所での交流イベント

こうどん

《神殿校区村づくり委員会(南九州市)と NPO法人エコ・リンク・アソシエーションとの協働活動》

南九州市川辺町神殿地区では、NPO法人エコ・リンク・アソシエーションと連携し、地域資源の発掘や耕作放棄地の再生、親水公園（ビオトープ）の維持管理による景観保全等に取り組みました。

当地区では、平成23年に耕作放棄地解消を目的とした農地活用組合の設立や、平成24年に地区内の南薩縦貫道の開通を契機に、地域活性化に向けた活動に取り組んでいます。

地域資源の発掘では、小学生から高齢者まで多くの住民が参加した「神殿あるもの探し」で地区内を散策し、豊かな地域資源をおすすめスポットとして紹介する散策マップの作成や案内看板の設置を行いました。

また、地区内の農地全ての現状把握をもとに、耕作放棄地の解消とひまわり等の植栽による景観づくりを行うとともに、親水公園を活用したホテルのタペコンサートの開催による交流人口の拡大を図りました。

今後も引き続き、地域資源の魅力を生かした情報発信に努めるとともに、地域ぐるみでビオトープや農地等の農村環境の保全に取り組むこととしています。



地域住民みんなで“あるもの探し”



地域資源を紹介した散策マップ

こうし

《神子区むらづくり委員会(さつま町)と 奥薩摩のホテルを守る会との協働活動》

さつま町神子区では、奥薩摩のホテルを守る会と協働で、ホテル舟の運航に併せたイベント等の開催や、ホテルの里をPRするシールの作成、地域農産物の販売促進等に取り組みました。

当地区を流れる川内川では、毎年「奥薩摩のホテル舟」が運行され、ホテルの棲みやすい環境整備や多くのボランティアによる受入が行われています。

ホテル舟の運行に併せて、ホテルの生息調査や川の清掃に取り組むとともに、地元食材を活用した郷土食の提供や伝統芸能の披露を行うなど、都市農村交流の活性化を図りました。

また、地元小学生が考案したホテルをイメージしたシールを作成し、町内の直売所等で販売する地元農産物に貼って販売促進と「ホテルの里・神子区」のPRを図りました。

今後も引き続き、郷土食や郷土芸能など地域資源の伝承活動に取り組むとともに、ホテルを活用した交流人口の拡大や地区のPR活動に取り組むこととしています。



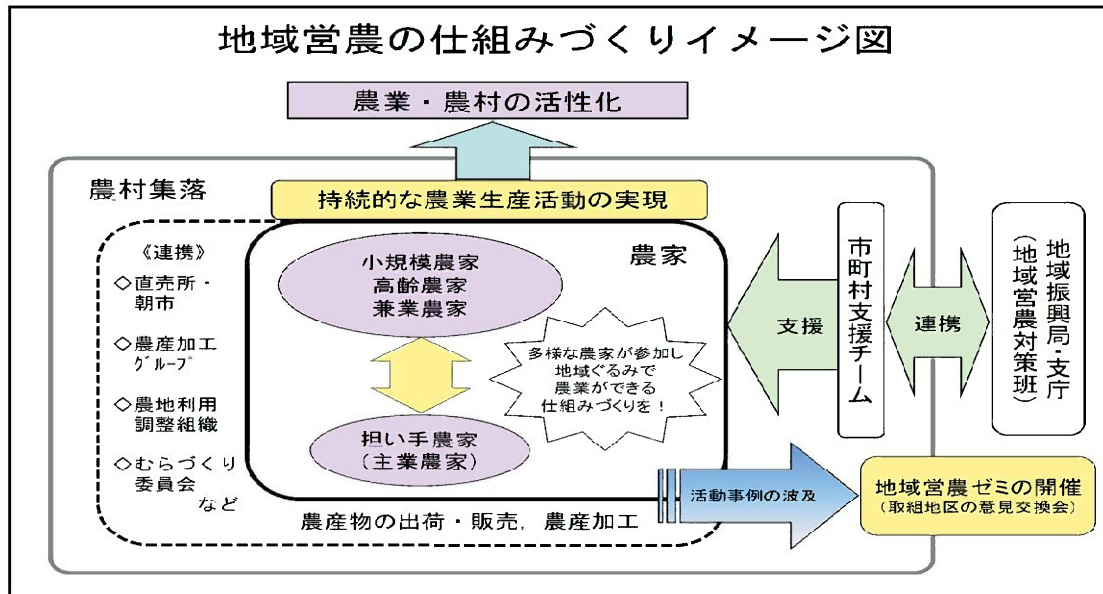
郷土食の伝承



「ホテルの里」シールを貼った農産物販売

平成26年度 地域営農の仕組みづくり実践事業の取組紹介

県では、地域農業の維持・発展を図るため、担い手農家だけでなく、高齢農家や小規模農家など多様な農業者が参加し、地域ぐるみで持続的な農業生産活動を行う地域営農の仕組みづくりを推進し、その実践活動に対して支援を行っています。



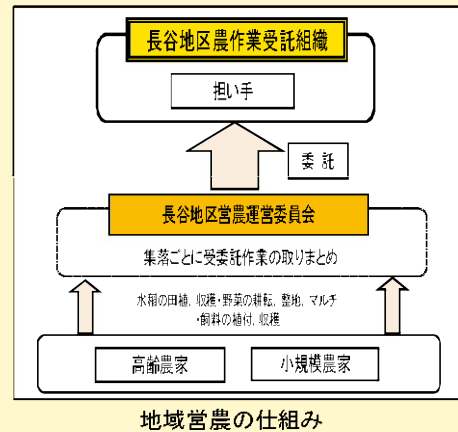
《 ながたに 長谷地区営農運営委員会(湧水町)の取組事例 》

湧水町長谷地区は、6集落で構成され、280ヘクタールの広大な畑地を生かして酪農、肉用牛、茶、野菜等が生産されています。一方で、農業者の80%超が65歳以上で高齢化の進行が著しい地区でもあります。

高齢化や地域営農の課題を解決するため、まず、地区役員や担い手などで「長谷地区営農運営委員会」を平成24年11月に立ち上げ、農家アンケートの実施や将来の地域営農ビジョンの話し合い、先進地研修などを重ねてきました。

アンケートからは「高齢農家等は営農意欲はある一方、植え付けや収穫等の重労働が困難」という現状が浮かび上がってきました。そこで、担い手農家を中心に「長谷地区農作業受託組織」を平成25年に設立するとともに、営農運営委員会が集落ごとの受委託作業をとりまとめ、農作業受託組織に委託する仕組みを構築しました。平成26年度は手始めに飼料作物の植え付け作業の受委託からスタートしています。

今後も話し合い活動を継続し、機械の共同利用体系を整備しながら、高齢農家や兼業農家も営農活動に参画できる営農組織体系を構築し、耕作放棄地の発生防止に努め、長谷地区の持続的な農業の発展に取り組んでいく計画です。



今後も続く話し合い活動

かわかみ

《 川上校区むらづくり推進委員会(肝付町)の取組事例 》

肝付町川上地区は、4集落・165世帯で構成され、小規模な棚田と斜面を利用したデコボン、ポンカンなどの果樹栽培が盛んな中山間地域です。近年、過疎化・高齢化が進み、耕作放棄地が目立つようになってきました。

そこで、耕作放棄地の解消とその利用について話し合いや先進地研修などを行いながら、地域交流施設「やまびこ館」を活用した地域内循環の営農の仕組みづくりに取り組みました。

まず、集落住民が総出で耕作放棄地の復元に取り組み、平成24年には65アールの農地がよみがえりました。解消した耕作放棄地には、コスモスやひまわりの景観作物、そばやさつまいもを植え付けました。収穫したそばを使って、そば打ち体験をやまびこ館で開催すると多くの親子連れで賑わい、手打ちそばの販売も好調です。これらの活動は、地域住民のむらづくり活動への自信につながっています。また、やまびこ館への農産物や加工品の出荷体制の強化にも取り組んでいます。

今後は、解消した耕作放棄地のフル活用とやまびこ館の販売強化を図りながら、農業体験活動や米のオーナー制度、農村レストランの開設など夢が膨らんでいます。



耕作放棄地を復元した農地への植栽



そば打ち体験を楽しむ都市住民

はまつわき

《 浜津脇集落農地管理組合(中種子町)の取組事例 》

中種子町浜津脇集落は、さとうきびや澱粉原料用さつまいもを中心とした営農が行われていますが、近年、高齢化や担い手不足等から耕作放棄地の発生が懸念されていました。

そこで、集落民自ら地域の農地を守る体制として「浜津脇集落農地管理組合」を設立し、定期的な話し合いを通じて、農地マップの作成や農地利用状況のチェック、集落共同の農地保全活動などに取り組んでいます。また、地域内の遊休農地には「借り手募集中」の看板を立てるなど耕作放棄地の発生防止に努めています。

一方、集落の活性化対策として、平成25年から軽トラックを利用した朝市「浜津脇朝市」の定期開催に取り組んでおり、毎回、地域で生産された野菜や花苗などが軽トラックの荷台にならび、集落内外の人たちで賑わう交流の場として定着しています。

今後も高齢化や担い手の減少が予想されるなか、農地管理組合が中心となって、集落ぐるみで担い手や後継者の確保・育成に取り組むとともに、浜津脇朝市を通じて集落内外の交流や収入機会の拡大を図り、地域農業と集落の活性化に努めていく予定です。



地域住民による農地の保全活動



多くの住民で賑わう浜津脇朝市

人とふれあう。自然を楽しむ。感動の農村体験！ ～かごしまのグリーン・ツーリズム～



本県の豊かな食や自然などの魅力を生かして、農家民泊や農作業等を体験する教育旅行の受入れを中心に、農産物直売所や体験農園等を活用した交流などのグリーン・ツーリズムの取組が県内各地で展開されています。

「かごしまグリーン・ツーリズムフォーラム in 南九州市」が開催されました。

平成27年1月30日に、南九州市の知覧文化会館において、県内実践者の資質向上を目的としたフォーラムが開催されました。県内各地から約200名が参加し、「地域コミュニティとツーリズムのよい関係」と題した講演のほか、「南薩まるごと体験塾」と銘打って、地域資源を利用した加工品・工芸品づくり体験や、食品衛生やリスクマネジメントに関する研修などが行われました。

今回のフォーラムを契機として、本県におけるグリーン・ツーリズム受入態勢のさらなる充実や発展が期待されます。



鹿児島県における体験型教育旅行が人気！

県外の中学校や高校が修学旅行で鹿児島県を訪れ、農業・漁業体験を行い、農家に宿泊する「体験型教育旅行」が増加傾向にあります。

これは、県内各地で、地域資源を生かした農業や漁業体験メニューが豊富なこと、受入農家とのふれあいが生徒の貴重な思い出になることなどが人気の要因で、交流人口の拡大や収入機会の確保など農村の活性化に大きく寄与しています。

現在、生徒たちを受け入れる登録農家等が県下で千軒を超えるなど、地域が一体となって生徒たちを受け入れる態勢が構築されつつあります。



むらづくり応援隊をご活用ください！

県では、県内のむらづくり実践集落のリーダーやNPO等、共生・協働の農村づくり運動への積極的な理解と協力の得られる方を「むらづくり応援隊」として登録し、農村集落へ紹介しています。応援隊自身の経験や知識等に基づく、むらづくりのノウハウの提供等により、むらづくりの課題解決や話し合い活動を支援しています。

むらづくりに関する情報提供・相談窓口

県では、農村集落が主体となって取り組む活動等の情報を本誌や新聞、ホームページ等で紹介しています。あなたの地域のむらづくり活動情報の提供など共生・協働のむらづくりに関することは、最寄りの市町村役場または各地域振興局・支庁農政普及課へお問い合わせください。

共生・協働のむらづくり通信 第8号(平成27年3月発行)

編集・発行：鹿児島県農政部農村振興課

〒890-8577 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1

TEL:099-286-2111(内線3108)

鹿児島県ホームページ(むらづくり, グリーン・ツーリズム)

<http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/nogyo/noson/mura/index.html>